

## 2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	山留め小委員会	主 査 名：元井 康雄 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (仮設構造運営委員会)	委員長名：五十田 博 (主 査 名：松永 茂実)
設 置 期 間	2022 年 4 月 ～ 2026 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>「山留め設計事例集」(仮称, 以下「事例集」)の刊行。「山留め設計指針」(2017, 以下「指針」)以降の山留めに関する研究開発成果や予測技術, 管理技術の検証。</p> <p>初年度: 「事例集」刊行および講習会の準備, 山留め実測事例の収集 2 年度: 「指針」推奨法による山留め壁・周辺地盤の変位予測精度の検証 3 年度: 「指針」推奨法の余裕度の検討, 変位予測解析手法ごとの入力定数評価 4 年度: 「山留め設計指針 (2017)」の改定を見据えた検討項目の抽出</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無: 無	
	主査: 元井康雄 (大林組) 幹事: 河野貴穂 (竹中工務店), 實松俊明 (鹿島建設) 委員: 石井義雄 (丸紅建材リース), 田口智也 (戸田建設), 井上波彦 (国土交通省), 岩田暁洋 (大成建設), 小玉大樹 (日建設計), 澤田 亮 (JR 総研エンジニアリング), 嶋田 司 (東京地下鉄), 清水孝昭 (竹中工務店), 下村修一 (日本大学), 岸田了 (清水建設), 山下俊英 (前田建設工業)	
設置 WG (WG 名: 目的)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山留め事例検討WG: 山留め設計事例および実測値の分析, 「山留め設計指針 (2017)」推奨法の検証。</li> <li>・ 山留め壁変位・周辺変位予測法検討 WG: 梁ばねモデルや FEM 解析による山留め壁および山留め壁の周辺地盤の変位の予測精度の検証。</li> </ul>	
2022 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無: 無 委員会 HP アドレス: 無

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	小委員会 2 回 ※事例集原稿作成作業をメール連絡にて継続 山留め事例検討 WG 5 回、山留め壁変位・周辺変位予測法検討 WG 4 回
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 「山留め設計事例集」(仮称) 運営委員会査読原稿提出 (90%) 2. 山留め実測事例の収集およびシミュレーション解析 (100%)
委員会活動の問題点・課題	1. 新型コロナ対応による面前での会議自粛中。